



日本共産党・そねはじめレポート とうきょう民報おりにこみ版

2011年 9月21日発行 第 13 号

そねはじめ事務所
114-0032
北区中十条2-11-6
Tel:3907-1135
Fax:3906-3225

若い家族も高齢者もみんなでアピール！！ さよなら原発集會に6万人が参加

●明治公園で数十年ぶりの空前の規模

9月19日午後、明治公園で「さよなら原発」集會が開かれ、政治集會で数十年ぶりの6万人集會となりました。

作家の大江健三郎氏や落合恵子氏、澤地久枝氏、ルポライターの鎌田慧氏、内橋克人氏（経済評論家）ら呼びかけ人が発言、福島の子代表、俳優の山本太郎氏なども訴えました。



●主人公は、個性的にアピールした、ひとりひとりの参加者

そねはじめ前都議も北区の区議団や共産党支部などの皆さんとともに参加しました。もよりの千駄ヶ谷駅から猛烈な混雑。人をかき分けるようにしてようやく会場に着きましたが、壇上の演説もなかなか聞き取れないほどの大群衆でした。



いちばん目立ったのは、プラカードやノボリに「原発なしの未来を私たちが創ろう」「いのちより原発を大事にする政治はNO！」など思い思いのスローガンや、顔や衣服に模様を描くなど参加者のアピールでした。小さな子を肩車で連れてきた親子連れもたくさんいました。

神宮外苑の絵画館前などには、全国から参加者が乗ってきた大型バスが数百台も集まっていた。

●警視庁はなぜ3万人しか数えないのか

7月2日の原発ゼロめざす集會や、浜岡原発廃炉を求める静岡集會を全く報道しなかったマスコミも、さすがに今回はテレビニュースや新聞で報道しましたが大半が小さな記事。

そねはじめ前都議とさがらとしこ区議は翌朝の20日、最も詳しく報道した赤旗日刊紙を赤羽駅西口で宣伝・販売し好評でした。

警視庁の発表では集會・デモ参加を3万人程度としていますが、明治公園に入れた人数だけを数えるやり方で、外にあふれていた膨大な参加者を無視した恣意的な数字です。

しかし、いかに小さく扱おうとしても、参加者一人一人が全国でこの感動を伝え、“原発全廃”の声は間違いなく大きな世論のうねりをつくり出していくでしょう。

◇9・26東北ボランティア経験者の交流会を企画！

9月のボラ隊は、支援物資を2トントラックで石巻へ



8月24日、北区のボラ隊が到着した石巻救援センター

ボランティアへの展望を語り合う交流会を計画しています。参加をしたくてできなかった方も歓迎です。詳しくはそねはじめ事務所までご連絡ください。

交流会では、10月21日ごろを見通しているボランティアのアイデアや企画も相談する予定です。

9月20日、小雨の中を北地区委員会事務所からレンタカーの2トントラックが、冬物の布団や洗濯機、電子レンジ、食器類や介護・ベビー用品などをつんで石巻の救援センターへ出発しました。今回の第5次ボランティアは、これまでに北区民から寄せられた支援物資の搬送が中心任務です。

北区の共産党による第1次から5次までのボランティア経験者は延べで46人になります。

9月26日(月)午後7時より、共産党北区事務所でボラ経験者の交流と今後の

そねはじめ交友録<その七> 北大の後輩に二人の傑物∴ 小森陽一氏と井上ゆり氏

北大3年のとき、新入生で来たのが、父親が党中央幹部で母親が詩人の小森香子さんという小森陽一氏と、父親に衆院議員米原いたる氏をもつ米原ゆりさんでした。二人は教養部を暴力占拠中の革マル派から自治会を民主化するため奮闘しました。二人とも北大当時、学生同志で話すときも、心をつかみ胸を打つ訴えが共通していて、年下でもこのリーダーのためならがんばれるなど素直に感動したことを思い出します。冬の季節、我われ学部生も教養部応援で、連日朝7時に結集してポスターやビラまきをしましたが、応援部隊がだんだん減って最後の1人になるまで続けたのが、私の誇りです。

卒業後、小森香子さんとお会いし陽一さんの近況を聞くと「漱石にどっぷりつかっています」とのお話。東大の若手教員共著の哲学書「知の冒険」で漱石論評を読み、突然NHKの美術番組でムックを紹介する小森氏を見たりしていました。そのご全国の憲法九条の会で事務局長をつとめ、朝まで生テレビでも活躍。

一方、米原さんは友人の結婚式で同席した後は会っていませんが、彼女も突然、作家の井上久氏との交友が伝えられ、のちに夫人となりました。ともに人の心をずしりと捉えるお二人ならではの経歴でしょう。

やっぱり学生時代、この二人に感じたオーラは本物だったことを確信したものです。

2009年の都議選の少し前、北区の北法律事務所での50周年記念のレセプションに来賓で出席した小森氏と、36年ぶりに握手。

